

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン<1年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・1学年のため昨年度の検証はなし。
- ・授業への取り組みは意欲的で挙手や発言

する生徒が多く、集中して取り組んでいる。一方で苦手意識をもっている生徒もいる。そのため、ICT機器の活用を日常的に行い、関心・意欲を高める発問を繰り返し生徒に考えさせることで、学習内容の理解に繋げている。課題は活用力の伸張である。特に問題文の主旨を正しく理解し、何が問われているかを把握する読解力を育むことである。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>34問中、内容別で目標値を+5ポイント以上の項目が半分以上あり、概ね小学校段階の学習が定着している。</p> <p>マイナス5ポイント以上低い領域は、「日本の食料生産」の稲作に従事している人びとの工夫と「天皇中心の国づくり」における聖徳太子の政策と「世界の中の国土」におけるわが国の気候に影響をもたらす季節風についての読み取りの3問であった。</p>
観点別結果の分析	<p>目標値と比較して</p> <ul style="list-style-type: none">・知識・技能は4.1ポイント上回っている。(全国平均比+1.6)・思考・判断・表現は7.2ポイント上回っている。(全国平均比+4.1)・主体的に学習に取り組む態度は4.8ポイント上回っている。(全国平均比+3.5)

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 知識・技能に関しては、ワーク・小テストの実施や授業の振り返りができるノート作りに取り組むことで、基本的な知識の定着を図る。また、ICT機器を活用しつつ資料読み取りの技術や方法を確実に習得させる。
- 2 思考・判断・表現に関しては、ホワイトボードを利用してグループ活動やペアワークを日常的に行い、言語活動の活性化を図る。発表活動や文章でまとめる活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- 3 主体的に学習に取り組む態度に関しては、導入で学習課題を提示し、学び合い活動の工夫を行うことで「気付き」のある授業を行う。また、授業の最後に必ず振り返りをし、ねらいの確認をする場を設けることで主体的に取り組む態度の向上を図る。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン< 2年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> • 中世の日本では、3問の選択問題、1問の漢字で答える問題、1問の記述式の解答形式の計5問とも目標値を5ポイント以上上回り、前年度の校内正答率もすべて上回っているのが成果である。 • 世界の諸地域では、オーストラリアの鉱工業について、目標値を15ポイント以上上回り、前年度の校内正答率を5ポイント下回っているのが課題である。また、世界地理の記述式の解答形式では目標率を15ポイント以上上回り、前年度の校内正答率を20ポイント下回っているのも課題である。
---------------	---

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> • 7つのすべての内容別正答率で、校内平均正答率が区平均正答率を上回っており、「日本の姿」と「中世の日本」では全国の正答率をも上回っている。
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> • 3観点とも目標値を上回っている。区平均正答率と比べると、「知識・技能」が4.2ポイント上回り、「思考・判断・表現」が3.4ポイント上回り、「主体的に学習に取り組む態度」が1.1ポイント、「知識・理解」が2.6ポイントそれぞれ区平均正答率を上回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習取り組む態度
小テストやコンテストの実施や授業まとめの振り返りを行うことで、基本的な知識の定着を図る。 黒板に拡大した資料をはり、資料の読み取り方や地図の見方を習得させる	授業内での発表活動やワークシートを活用した文章でまとめる活動を充実させ自分の考えをまとめ、記述する力を育成する。	付箋を活用した授業を行い、生徒の興味関心をもたせる学習課題の設定を行う。 授業では、プリントで進める学習を進化させ、ノートを含めた提出回数を増やす。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン< 3年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

- ・昨年度も一昨年度に引き続き、地理的分野、歴史的分野ともにICTを利用して興味をもてるような発問を繰り返し生徒に考えさせることで学習内容の理解に繋げた。また可能な限り話し合い活動を取り入れ、明るい雰囲気の中で授業を展開することに留意した。
- ・1年次の3学期より取り組んでいる基礎基本用語の定着を狙った一問一答形式のドリル練習を2年次でも1年を通して取りくんだ。特にチャレンジテスト形式を新たに設け、スモールステップで自ら意欲的に学習できるようにした。

【成果】

- ・資料活用能力が上昇したことにより、今年度の大田区効果測定でも思考判断力が問われる地理の問題において、目標値を大きく超える結果となった。

【課題】

- ・昨年度同様、休校期間等による3ヶ月以上の遅れを取り戻すのに苦労している。興味をもたせ印象に残る丁寧な授業を毎回心がけているが、授業レベルを落とさずに授業内容を消化していくことに更なる工夫が必要である。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○地理的分野（日本の地域的特色と地域区分、日本の諸地域、地域調査の手法）については全ての問題で目標値を上回り、概ね定着していると考えられる（地理全体では+9.3ポイント）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の地域的特色と地域区分」（目標値比+6.1ポイント） ・「日本の諸地域」（目標値比+13.8ポイント） ・「地域調査の手法」（目標値比+8.3ポイント） <p>○歴史的分野（安土桃山時代、江戸時代、明治時代）については未だ履修していない範囲だったことが影響し、多くの問題で目標値に届かない結果であった（歴史全体では-5.6ポイント）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安土桃山時代」（目標値比-0.3ポイント） ・「江戸時代」（目標値比-8.8ポイント） ・「明治時代」（目標値比-5.4ポイント） <p>○全体を通して、前年度よりも+1.1ポイント、目標値よりも+1.5ポイントとそれぞれ上回り、学習した内容は目標値を大きく超えた。（目標値比+9.3ポイント）</p>
観点別結果の分析	<p>○目標値と比較して(昨年度は観点が異なるために比較できず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」は0.1ポイント上回っている。 ・「思考・判断・表現」は5.0ポイント上回っている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は5.3ポイント上回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習取り組む態度
基本的な知識の定着を図ために基本用語ドリルを充実させていく。ICTを活用しながら、資料の読み取り方を確実に習得させる。	ペアワークなどによる問題解決能力の育成、また、発表活動や文章でまとめる活動を充実させる。自分でまとめる力を伸ばすノート作りを啓発していく。	導入展開の工夫や興味関心をもたせる学習課題の設定を行う。ICTを活用する。更にチャレンジテストを実施して何度でも頑張れる体制作りをする。